

# 木の香り漂う、e+mの手づくり文具。

「e+m」は、惚れ惚れするほど美しい木製のステーションナリーブランドだ。その製作の過程を、ニュルンベルク郊外にある現地の工場取材した。



1. ヴォルフラム・ミュムラー社長。2. 木製部品と内部の部品をファイルしたもの。3. のり付けの作業中。4. オリーブの木を使った新作のプロトタイプ。5. どの部品が必要なのかをわかるようにセットされた台。6. 会社創業時のノート。1万以上のペン軸のデザイン画が描かれている。7. クリップ付きシャープペンシルの初期のスケッチ。8. 手作りの木枠。9. 穴開けは重要な工程のひとつ。

マットクローム仕上げのシルバーの輝きが、木の質感を引き立てるスケッチペン。ボディの先をV型にカットして、金属のクリップを付けたシャープペンシル。握りやすい木のグリップに銀色の刃が映えるレターオーブナーや卵形の芯削り、箱形のペン立てまで。シンプルでデザインでありながら、どこか温かみと懐かしさを感じさせる、美しい木製ステーションナリーは、ドイツの「e+m」が生んだ傑作だ。

## 少人数だからこそ、特別注文にも対応できる。

南ドイツ、ニュルンベルク。

ステッドラーやファーマーカステルなど老舗文具メーカーが集まる都市だ。そこから車で20分ほどのノイマルクトに、e+mの工場はあった。100年以上の伝統ある木工製品メーカーの工場にしては、意外なほど小さい。

「社員は15名しかいません。少人数のほうが、特別注文にも柔軟に対応できるうえ、凝ったデザインも手作業を生かして作ることができます」とヴォルフラム・ミュムラー社長。創業者、コンラッド・エーマンのひ孫である。

1899年、エーマンが会社を始めた時は、1万本以上もの異なる模様のペン軸を作る会社であった。その模様の美しさに、世界中から注文が殺到。ドイツでも最大のペン軸工場に成長した。その後、戦争を経て、父親の代で材

木販売業に方向転換。83年、ミュムラー社長は、父の跡を継ぐためアメリカから帰国。工場内に文具製造用の機械が残っているのを見て「また文具を作ってみよう」と思い立った。

当初は下請けばかりで苦戦したが、2000年に心機一転、自社ブランドを開発。現在は高級木製文具ブランドとして、成功の道を歩み始めている。

デザイナーに人気がある芯径5.5mmのスケッチペンは、ボールペンのリファイルも同梱。ミュムラー社長夫人が最初にデザインし、3年前に開発。年間1万本を売るヒットとなった。V型シャープペンシルのデザイナーは、03年にニュルンベルクの美術大学を卒業したばかりのジャクリヌ・クレムペ。「新しいデザイナーを探していた時、彼女に出会った。いまもデザインを頼んでいる作品がいくつもある」と社長。

工場に働いている社員は、みな木工職人の資格を持ち、全員が穴開けからのり付けまでの全工程を担当できる。

小さな工場ゆえ、安価な大量生産はできないが、新しい製品を常に開発し、古い製品の品質向上も考えている。

工場見学の後に通されたミュムラー社長のオフィスは、木の香りがした。「木で作った文具は、手にしっくり馴染む。私は、その木の持つニュアンスを生かすために、あえて別の素材を組み合わせて、わくわくするようなデザインを心がけています」